

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

JR東日本駅ホーム自動放送アナウンスを務める声優・ナレーター



声優・ナレーター
田中一永さん

伝えたい“新しい朗読鑑賞の楽しみ”

『まもなく2番線に普通高崎行きがまいります。』

誰もが聞いたことのある低く通る声。首都圏のJR駅で使われる自動音声の男性の声が平成26年から交代し、多くの駅で音声が変わっています。今、『日本で一番多くの人に聞かれている』といっても過言ではない声の主、それが深谷出身の田中一永さんです。

子どものころから、音読好きだった田中さん。小学校の全校集会の音読会では、クラスの代表に選ばれることもよくありました。「それ以外は普通の子ども。どちらかというと地味な方だったかもしれません。」と当時を振り返ります。

声優・ナレーターとしてキャリアを積み、今、自主的な活動として力を入れているのが『朗読会』です。田中さんの朗読は、一人芝居のような朗読であり、ホールなどの広い空間でマイクを使わず、生声で観客へ声を届けるシンプルな形をとっているのが特徴です。

今回で3回目となる朗読会は、自身の出身地でもある深谷で開催されます。テーマは『やさしい絆』。「朗読は派手なものではないですが、親しみやすく、心を耕す娯楽として楽しんでもらいたいです。朗読のイメージをいい意味で変えるきっかけになってくれたらうれしいですね。」と、地元での朗読会開催への意気込みを穏やかな口調と笑顔で語ります。身近に聞こえてくる田中さんの活躍にこれからも『耳が』離せません。

朗読のイメージをいい意味で変えるきっかけになってくれたらうれしいですね。」と、地元での朗読会開催への意気込みを穏やかな口調と笑顔で語ります。身近に聞こえてくる田中さんの活躍にこれからも『耳が』離せません。



▲過去の朗読会の様子。ホールなどの広い場所です。

『秋の朗読会 in 深谷市』
朗読会 in 深谷市「やさしい絆」(田中一永さん出演イベント) ※入場無料
11月3日(祝)午後1時30分(開場:午後1時) 深谷市民文化会館小ホール

L・フォルテ

男女共同参画情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気と笑顔で参画するまち ふかや
男女共同参画政策課 ☎574 - 6643

L・フォルテは、深谷市男女共同参画推進センターの愛称です。このコーナーでは、男女共同参画に関する情報を皆さんに紹介します。

ワーク・ライフ・バランス～仕事と介護の両立～

日本では、『男は仕事、女は家庭』といった性別による役割分担の考え方のもと、これまで「家族の介護」は主に女性が担ってきました。しかし、社会情勢の変化とともに人々のライフスタイルは多様化し、共働き世帯が増加しており、家族の介護を女性任せにはできない状況になっています。

さらに、少子高齢化が進行していく中で、介護を理由に仕事を辞める人も多くなってきており、平成29年度に実施した意識調査では、4.7%の方が「家族の介護を理由に自身が仕事を辞めたことがある」と回答しています。『家族の介護は家族で』という強い気持ちから、介護離職に至るものと考えられますが、介護を要する期間は長期にわたることも多く、また、育児とは違い、介護の担い手の負担は徐々に増していくことから、先々の見通しも立ちにくいのではないのでしょうか。

家族みんなが安定した生活を送っていくためには、介護を家族だけで抱え込まず、介護保険制度によるサービスや、介護休業などの勤務先の制度を上手に活用しながら、無理なく介護を継続できる体制づくりが必要です。

市では、地域包括支援センターと連携を図りながら相談体制を充実させるとともに、働く人や事業所に向けてワーク・ライフ・バランスについての啓発を行い、性別にかかわらず、仕事と家庭が両立できるよう引き続き支援を行ってまいります。

ふっかちゃんの日常から深谷が見えてくる

ふっか 散歩

64 ふるさとハローワーク・キララ上柴 Part3

キララ上柴の中には『ふるさとハローワーク』もあるんだ。ハローワークで扱っているお仕事情報が見れたり、お仕事に関する相談を受け付けたりしているんだって。近くにあるから、便利だねえ♪



▲ふるさとハローワークにあるお仕事の検索用のパソコンだよ。このパソコンではなんと全国120万件以上のお仕事を検索できるんだって。職員さんと相談しながら、自分に合ったお仕事を探そうねえ。



▲キララ上柴には体育室もあるんだねえ。ちょうど卓球の練習をしていたところに入らせてもらったよ。このほかに、普段はバスケットボールとかバドミントンとか、いろいろな使い方をして楽しめるんだって♪

ふっかちゃんのつぶやき

秋らしくなってきたねえ♪秋といえばスポーツの秋!ふっかちゃんもラグビー衣装でいろんなところに登場するよY(o0w0o)Y

心の広場

榛沢小学校3年(現4年)
角田 未弥美さん



アイマスク体けんをして

きのう、学校でアイマスク体けんをしました。この学習で、目が不自由な人のふだんの生活を体けんしました。

アイマスクをした時、あたりがまっくらになってこわかったけど、少したったらなれてきて耳できいたり、手でさわったりすることができるようになりました。

そして、先生のいばしょや先生がおとした物が何なのかを考えました。耳をよくはたらかせていっしょうけんめい足音を聞きました。耳をはたらかせるとあちに行ったり、近づいてきたとかがわかりましたが、おとしたものは何なのかはわかりませんでした。

黒板に書いた文字はそうぞうしてもわかりませんでした。次は、お金をさわってみました。ゆびさきをつかっただけは何円かなと考えました。

この体けんをして目が不自由な人は、こんなにくろうして生活していたんだなと思いました。

町の中でも、目が不自由な人を見たことがあります。点字ブロックを白いつえでつつきながら歩いていました。まわりには人がいて、車も通っていました。

今回のアイマスク体けんは教室の中での体けんです。もし、わたしが目が不自由だったら、外に遊びにいったり、でかけたりすることはこわくてできないと思います。

けれど、白いつえをついた人たちはきけんところもつえをつかって歩いていました。

きっと、外にでかけることができるようになるまでたくさんの練習をしたんだろうなと思いました。

わたしは今ピアノの練習をしています。なかなか思うようにひけないことがあり練習がいやになることがあります。

でも、目が不自由な人のどりよくを考えると、もっとじょうずにひけるようになるために毎日の練習を続けることが大事だなと思いました。

そして、町で白いつえをもっている人を見かけたら、ぶつからないように気をつけて歩きたいです。また、こまっていたら声をかけ、たすけてあげたいです。